



***** 分科会・研究会情報 *****

JEMS・BMS研究会活動報告

■精度管理試験

第12回精度管理試験について、全30の参加機関のデータを集計し、第74回定例会にて結果を報告した。

■共同研究

1) 3菌株 (TA97, TA97a, WP2uvrA/pKM101) のAmes試験データの収集に関する共同研究

・第1回共同研究

論文文化に向けた準備を進めており、現在論文草案を作成中である。

・第2回共同研究

11種類の弱変異原性物質の試験データを収集した。このうち、WP2uvrA/pKM101およびWP2uvrAで試験した5物質を対象とし、2倍法、平均+2SD [upper 2SD] および99%信頼限界上限 [99% UCL] を用いた解析および解釈を行い、第74回定例会において大腸菌株に関する最終結論 (変異原性を評価する際、WP2uvrA/pKM101を用いて、用量依存性をエキスパートジャッジメント、コロニー数増加の有意性を施設のupper 2SDもしくは99% UCLによって解釈・結論する手法が有効であると考えられる。加えて、各施設の習熟度および背景データは、解釈・結論の信頼性を高めるために重要である) を報告した。

今後、JEMS第55回大会 (ポスター発表) およびBMS研究会第75回定例会において第2回共同研究の最終結論を報告する予定である。

2) Ames試験菌株の全ゲノム解析に関するBMS pilot study

JEMS第54回大会で発表した「各施設におけるTA100株の感受性の違いについての一考察 (BMS pilot study)」の研究内容を論文文化するための準備を進めている。

■Ames試験講習会

2026年7月11日 (土) ~12日 (日) に慶應義塾大学薬学部 (東京都港区) にて、初級者を対象としたAmes試験講習会を開催した。Ames試験の原理、菌株の特性確認、前培養条件の設定、Ames試験の手順について講義を行い、講義後にそれぞれの実習を行った。

15名が受講し、初日終了後には情報交換会が開催され、受講者から講師に対して活発な質疑応答が行われた。2日目終了後に修了証を発行した。

■BMS研究会第74回定例会

第74回定例会が2026年7月31日 (金) ~8月1日 (土) に横須賀市生涯学習センター (まなびかん) で開催された。世話人は山田雅巳会員が務めた。

総会では藤本透会長より庶務/会計幹事の任期に関わる会則改訂の提案がなされ、承認された。加えて、「3菌株 (TA97, TA97a, WP2uvrA/pKM101) のAmes試験データの収集に関する第1回共同研究」の論文投稿費用を、BMS研究会会計より支出することが承認された。

初日のプログラムでは、先に開催されたAmes試験講習会のアンケート結果について藤本会長よりフィードバックがなされた。続いて、「3菌株 (TA97, TA97a, WP2uvrA/pKM101) のAmes試験データの収集に関する第2回共同研究」の大腸菌に関する結果を、井上陽子会員が報告した。また、橋本清弘JEMS理事よりEnhanced Ames Testに関するICH M7 Sub-groupでの議論についての講演がなされた。翌日のプログラムでは、BMSアドバイザーの加藤雅之先生から「Ames試験講習会上級編：結果の解釈・評価」と題した教育講演が行われた。倉上真樹会員より、第12回精度管理試験の結果が報告された。第73回定例会に引き続き、「(続) Ames試験の限界と改良の方向性」として羽倉昌志会員の講演が行われた。参加者は非会員を含め50名程

であり、初日プログラムの終了後には情報交換会も行われ、盛況のうちに終了した。

(文責：BMS会長 藤本 透)

JEMS・MMS研究会活動報告



MMS 研究会第 88 回定例会

日本環境変異原ゲノム学会 MMS 研究会は 2026 年 6 月 19 日（金）から 20 日（土）に千葉県銚子市「絶景の宿 犬吠埼ホテル」にて第 88 回定例会を開催した。メディフォード株式会社 志賀野会員が世話人を務め、参加者は演者らを含めて 65 名にのぼった。

初日の総会では、会員数動向の報告や昨年度の活動報告がなされるとともに、2025 年度の会計監査結果及び 2026 年度の予算計画、IWGT への協賛金拠出が承認された。また、昨年度秋の大会で決議した会則改訂内容を共有するとともに、MMS 研究会での共同研究費用や研究会活動に関わる費用について、その拠出の決裁権限及び申請・承認フローについて協議した（後日 MMS 会員サイトへ掲載予定）。

定例会では、(1) 共同研究報告、(2) 若手企画「若手のお悩み相談会」、(3) レギュラトリーサイエンスの未来を語る 行政との討論セッションを中心としたプログラムを実施した。このほか、世話人企画として「細胞毒性評価におけるグルコース、乳酸測定の実用性検討」が行われた。また、懇親会では 2 社による自社ラボ紹介、ナイトセッションでは ECS (Error-corrected sequencing) に関する IWGT working group の現状や OECD detailed review paper の進捗についての紹介が行われた。

若手企画では若手有志が企画担当者となり、同世代（主として 20～30 代）から日常業務における疑問や悩みを事前アンケートで収集し、それらを題材としてグループディスカッションを行った。若手・中堅・ベテラン会員の間で率直かつ活発な意見交換が行われ、他社の考え方や経験を知る貴重な機会として有用だったという意見が多く寄せられた。

また、レギュラトリーサイエンス企画では、規制当局の立場で業務にあたっている方々の視点を交えた意見交換や学会へ期待することのディスカッションが行われ、NAMs など新技術への対応など規制動向への関心の高まりを背景に、今後も継続を望む声が多く寄せられた。

定例会終了後、MMS 幹事会を行い、第 89 回秋の定例会プログラム及び第 90 回春の定例会開催場所等について協議した。事後アンケートの結果、春の定例会の開催方式については、「企業間交流の促進」「共同研究参加者との議論の深化」「若手とベテランの接点形成」などの観点から、宿泊型（合宿型）開催の意義が今年度も高く評価された。一方で、世話人の負荷軽減や参加者の利便性を考慮し、宿泊型に加えて一日完結型の定例会開催も検討することとした。第 90 回春の定例会（2027 年春）については、一日完結型の定例会を関東エリアで開催することを検討中である。

■第 89 回 MMS 定例会開催予定

例年通り日本環境変異原ゲノム学会大会前日に開催する。

日時：2026 年 11 月 13 日（金）評議員会終了後

場所：星薬科大学キャンパス内 (<https://www.hoshi.ac.jp/gaiyou/map/>)

参加費：無料

プログラム：MMS 共同研究進捗報告、テーマ別企画

(文責：MMS 幹事 千蔵 さつき)

変異機構研究会「第37回夏の学校」ご案内

変異機構研究会「第 37 回夏の学校」を次の要領で開催いたします。参加申込期日は過ぎましたが、状況によりましては、まだ受付可能の場合がございます。参加申込みされておられない方は是非一度下記事務局までお問い合わせください。今年の会

場は大阪府岬町です。多くのみなさまの参加をお待ちしております。

記

日時：2026年8月30日（日）13時～8月31日（月）12時

場所：淡輪（たんのわ）ハウス（〒599-0301 大阪府泉南郡岬町淡輪 830）

<https://www.aplis-net.co.jp/facility/tannowahouse/>

（南海本線淡輪駅徒歩3分）

会費：一般 16,000 円（JEMS 会員 15,000 円）予定，学生 11,000 円

プログラム

特別講演

小野寺威文 先生

（公財）微生物化学研究会微生物化学研究所沼津支所 主任研究員

「肝がんの低栄養ストレス環境への適応機構と脆弱性に基づく創薬研究」

日下部将之 先生

神戸大学バイオシグナル総合研究センター 助教

「ヌクレオチド除去修復の損傷認識を制御するクロマチンダイナミクス」

特別企画（JEMS 連携企画）

「企業研究者に聞く！」

千葉修一 先生（三栄源エフ・エフ・アイ株式会社 安全性科学部長）

西土井悠作 先生（日本農薬株式会社 研究本部総合研究所安全性・薬理グループ）

企業研究者と研究職志望者の情報交換会

一般講演・総合討論

参加ご希望の方は、1 氏名とフリガナ，2 性別（部屋割りのため），3 年齢，4 所属（職階または学年も），5 連絡先住所・e-mail アドレス・TEL・FAX を，至急下記事務局（川西）宛にご連絡ください。（開催初日の1週間前より規定のキャンセル料を申し受けます。）

問合わせ・参加申込先（事務局）

〒599-8570 大阪府堺市中区学園町 1-2

大阪公立大学創薬科学研究科

川西優喜

TEL：072-254-9830，FAX：072-254-9938，E-mail: kawanishi-m@omu.ac.jp

研究会ホームページ：<https://www.j-ems.org/groups/heni.html>

以上

（変異機構研究会 川西 優喜）